2012年９月14日（金）　Fuji Sankei Business i.

復興に活躍する
技術士

日本技術士会防災支援委員会　旭勝臣氏

避難住民と相互に意思疎通

日本技術士会は今回初めて、震災直後から組織的に避難住民との相談会に参加した。

最初の相談会は避難所の東京ビッグサイト（東京都江東区）で、震災直後の2011年３月末から４月末にかけて開催された。避難住民は、福島から東京に着の身着のままで避難してきたということで、相談事というより、避難住民の身の上話を聞くこと（傾聴ボランティア）が中心だった。

４月末から６月末までは、避難所の旧赤坂プリンスホテル（千代田区）で、相談会が開催され、このときは放射線の測定機器の入手方法などについて相談があった。

８月に入ると、相談会は千代田区、江戸川区、八王子市、多摩市などで会場を確保し、月に２～３回開催された。11月ごろからは、原子力・放射線部会の技術士も参加し、毎回５人程度の技術士が相談会に参加した。

主な相談内容は、①除染問題②地元市町村での復興計画の策定状況③避難住民が住んでいた場所への帰還―などだった。

相談員の技術士は全員、福島県内の被災市町村の現場に出かけ、富岡町などの復興計画策定委員会などに参加しており、東京での避難住民の相談に対して、福島の地元の現状を踏まえて対応した。

現在は、避難住民同士の避難先情報が入手できていないことが大きな問題になっている。個人情報保護法という大きな壁があるからだ。

これから、避難住民は福島のどこに帰るのか、東京に残るのかなど、難しい選択を迫られる。災害というリスクに関する情報を、避難住民・専門家らの関係者間で共有し、相互に意思疎通を図るリスク・コミュニケーションが必要となる。技術士として、できるだけの支援をしていきたいと考えている。

都内で開かれた相談会で、福島からの避難住民から相談を受ける技術士